

人口と世帯

人口 406,092人
男 200,797人
女 205,295人
(前月より60人減)
世帯 166,816世帯
(前月より267世帯増)
(17年4月1日現在)

町田市 総合水防演習

—5月15日(日)—



台風の接近による大雨により、崖崩れや建物地下部への浸水等の被害が発生したことを想定して、町田市及び町田消防署と町田市消防団が合同で「平成17年度総合水防演習」を実施します。

この演習により、防災関係機関相互の連携確立や、水防工法の運営要領そして工法技術の習得・向上を図ります。

日時 5月15日(日) 午前9時30分～正午

会場 鶴見川クリーンセンター

(三輪緑山1丁目1番)

見学希望の方は直接会場において下さい。

問 防災課 ☎724・2107



相原中央公園開園を記念して
テープカットが行われました

これまで地元運営委員会によりサッカー場などに利用されてきた「相原スポーツ広場」が相原中央公園の一部となる「相原中央グラウンド」として生まれ変わり、地元の方々、寺田市長、市議会、都議会議員、工事関係者などが出席して、4月16日、開園式を行いました。

相原中央公園のグラウンドは、相原駅の西側に位置し、1976年、相原小学校の第2グラウンドとしての利用から始まり、これまで地元運営委員会などにより利用されてきました。その後、総合公園としての要望が高まり、1988年1回目の事業認可(11・5ha)を受け、1997年に事業認可の変更(15・7ha)を行い、2003年度より整備工事を開始、「相原中央グラウンド」が完成しました。

この度、開園した部分は広さが1万7500㎡で多目的広場(サッカー、野球兼用)、壁打ちテニス、ナイター用照明5基、トイレ、観覧席などがあります。今後も、多目的広場、2、テニスコート、遊具、園路、管理事務所、駐車場などを整備していく計画です。公園全体の完成は2007年を予定しています。

また、当日、多目的広場では公園開園祝いと同時に(財)相原保全会共有地確定100年を記念する「フェスタ相原100」が開催され、演奏や、模擬店、消防団による一斉放水などがおこなわれて、たくさんの方々が参加して大賑わいでした。

席して、4月16日、開園式を行いました。

相原中央公園 開園式が行われました



「フェスタ相原100」の舞台での尺八と大正琴の合奏

市長随筆

その18

町田市長
寺田 和雄

明治の水彩画家、大下藤次郎(一八七〇—一九一一)に「武州七国峠」と題する水彩画がある。わが町田市の一角が、大下のような名の通った画家によって描かれているのは珍しく、貴重なものである。

大下藤次郎は、明治三年東京府本郷に生まれ、若くして水彩画に親しみ、中丸精十郎の私画塾に通った。

明治三十三年、パリ万国博覧会水彩画出品、続いて翌三十四年、「水彩画の菜」を發行、丸山晩霞、三宅克己らと空前の水彩画ブームをつくった。三十八年、美術雑誌「みづゑ」を創刊した。同時代の水彩画家、浅井忠のような派手さはなかったが、地道に美術の啓蒙に尽くした。丹念な筆致で独特な静謐さをたたえた画風が特徴であった。

大下の年譜によると、明治二十八年十一月十一日より十四日まで、八王子・窪沢(久保沢)・小倉・塩川・田代・小名路を旅行、水彩画十枚描く(ゆく秋のやま路)とある。「武州七国峠」には廿八年十一月十一日と記されているので、この写生旅行の初日に描いたものである。大下は、後年の紀行文でこの辺りへの交通の手段は、八王子停車場から二里半ほど歩いて七国峠を越えるか、横浜鉄道相原駅から一里・・・などと記されている。しかし、この写生旅行当時は横浜線も無かったため、大下は八王子から峠を越えたものと思う。今から百年ほど前のこと、大下二十六歳のときであった。



現在の七国峠付近の山林

パスの背面を通り、浅川へ至る都道を越えると大戸緑地から町田市最高峰の草戸山(三六三・一メートル)に達し、東へ向かえば、小山ヶ丘からさくらまつりで知られる尾根緑道に至る。まさに町田の背稜山脈(多摩の横山みち)と云っている存在である。

七国峠(二〇〇メートル)は、旧鎌倉街道の一つともいわれ、古くからの重要な交通の要衝であった。近くにはこの辺りの最高峰である大日さまの祀られた標高二二〇メートルの地点がある。「七国山開七州見晴台跡」ともいわれており、大下の「武州七国峠」は、この辺りからの展望を描いたものと思う。

この尾根の北側、すなわち八王子市側は、大規模な区画整理によって開発され、往時の痕跡すら見あたらないが、町田市側は鬱蒼とした樹林帯によって占められ、大下の描いた「武州七国峠」の展望はほとんど望めない。

町田市は昨年、この辺りを廣大に所有していた某不動産会社から約二三ヘクタールほどを緑地として買収した。また、その南側の丘陵部約一五・七ヘクタールを相原中央公園として緑を保全しつつ整備中で、やがて自然豊かなレクリエーション地帯となる。

明治の水彩画家・大下藤次郎 「武州七国峠」を描く

この尾根は、町田市と八王子市の行政境界になっていて、北は多摩川、南は境川水系の分水嶺になっている。

その昔、甲冑に身を固めた鎌倉武士たちが陣馬とともに疾駆した往時を偲ぶ「七国峠」を大事に保全していきたいと思う。大下藤次郎は四十二歳で天逝した。もっと永く生きて活躍してほしかった画家である。

大下藤次郎「武州七国峠」・島根県立石見美術館蔵

